

# 令和の戦略2020

県内企業トップに聞く

「この1年を振り返ってほしい。」

「年明けに抗菌薬『セファゾリンナトリウム注射液』が原薬の問題で供給がストップし、11月に再開するまでほぼ1年かかった。代替できない医薬品を安定供給する責任の重さを再認識した1年だった。同じく原薬の問題で胃薬『ラニチジン錠』を自主回収した。調達する原薬を評価、分析する体制の強化に向け、信頼性保証本部と製剤開発部門のスタッフを増やす」

「今春にエルメッドを統合した。」

「今は1+1が2の段階に過ぎないが、3、4にするため、原薬や製造所の一本化、製品の統合といった手を打つ。エーザイとは国内で共同販促を進めており、中国市場でも連携する。中国は規制が変わりやすく難しい市場であ

## 日医工社長

### 田村 友一氏

【6】

り、国内のジェネリック医薬品(後発薬)メーカーで本格的に進出している社はない。現地で日本企業としての実績があるエーザイと組めたことは大きなメリットだ。無限の連携力を発揮できると思う」

「来年、政府が掲げる後発薬の使用割合80%の目標時期を迎える。」

「80%に達してジェネリック医薬品の成長が止まるのではないかとこの声があるが、そうは思わない。目標はあく

# バイオ後続品1000億円目標



たむら・ゆういち 1962年富山市生まれ。学習院大卒業後、住友商事勤務を経て89年に日本医薬品工業(現日医工)入社。90年に取締役経営企画室長、94年に代表取締役専務、2000年から現職。57歳。最近は「グッド・ワイフ」「スーツ」「ハウス・オブ・カード」といった米国のテレビドラマをよく見る。本社所在地は富山市総曲輪1丁目。19年3月期連結の売上高は1665億円。

まで数量ベースであり、自治体によってばらつきが大きい。ジェネリック医薬品によってどの程度医療費を削減できたのかという経済効果が検証されていない。これまでの医療費の削減実績を明らかに

た。バイオシミラーを含むバイオ医薬品は製剤ごとに専用設備が欠かせず全て自社でカバーすることはできない。それぞれの専門分野を持つ企業といかに提携していくかがポイントになる。10年後にはラインアップを開発中の製品を含めてリウマチとがんを柱とする計10品目程度に増やし、事業の売上高1千億円を目指す」

「来年に社長就任から20年となる。」

「振り返ればあつという間だった。社長就任時の売上高100億円は20年で20倍になったが、あと20年務めるとすれば、最終的に50倍の5千億円にしたい。来年は当社の創業55周年でもあり、東京五輪に合わせて7月に富山市内で全社員を集めた運動会を開く予定だ。55周年の『ゴーゴー』にふさわしく、飛躍につながる『行け行け』の年にしたい」

(聞き手 経済部・池亀慶輔)